

飛鳥資料館の特別展示

飛鳥資料館

飛鳥地域では、さまざまな形でほとんど一年中どこかで考古学の発掘調査がおこなわれている。村の文化財保存課の手によるもの、県の橿原考古学研究所が担当するもの、奈良国立文化財研究所の実施するものと、調査を担当する機関もいろいろある。

新聞記事を丹念に読んでいれば、発掘の概要が伝えられている場合も多いが、実際に調査中の遺跡をすべて見てまわるのは、専門家にとってさえ容易なわざではない。また遺跡の持つ意味が、何度かの発掘調査をくりかえし、調査の図面、写真、遺物の整理がすすんで、ようやくはっきりとしてくるといような場合もすくなくはない。

過去一年あるいは数年間の発掘をふりかえって、調査の概要と調査の結果わかってきたこととを分かりやすくまとめ一覧可能な形で紹介することも、地域の資料館に求められる大切な役割の一つといえるだろう。

当資料館は1993年6月からの増築・改装工事のため、これまで定期的に開いていた春、秋の特別展も取り止めとなっていた。1994年7月に建物自体は完成をみたが、コンクリート部分はまだ十分に乾燥しきっておらず本格的な使用にはもうしばらくの時間がかかり、展示ケースなど内部施設も整っていない。しかし将来の特別展の方向を考える上で、まず新展示室の機能を確認しておく必要もあり、小規模な秋の企画展を試みた。飛鳥地域で発掘を担当している各機関の協力を得て、明日香村、そして橿原市の一部で最近調査がおこなわれていた主要な遺跡を写真・図面を中心に紹介し、関連遺物も可能な範囲で展示した。今回の展示で取り上げた遺跡は、飛鳥寺、坂田寺、本薬師寺、奥山久米寺、豊浦寺、伝板蓋宮、酒船石周辺遺跡、西橘遺跡、石神遺跡、雷丘東方遺跡、雷丘北方遺跡、山田道周辺遺跡である。

(岩本圭輔)

